

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

### 記

■実施日 2017年2月13日（月）ご依頼分より

### ■新規項目内容一覧

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
6186 2	CDT/ トランス フェリン比	血清 0.6	↓ A00 (X)	冷蔵 (21日)	3~9		CDT : ネフェロメ トリー  トランスフ エリン: 免疫比濁法	%CDT 1.24~2.16 アルコール性肝障害の カットオフ値 2.00 (%)  トランスフェリン M 190~300 F 200~340 (mg/dL)	トランスフ エリンが 120mg/dL 未満の場合、 %CDTは評 価できません のでご注 意ください。 (試薬添付 文書より)

## ● CDT/トランスフェリン比

習慣飲酒マーカー、アルコール性肝障害の鑑別マーカーとして期待される新しい検査です。

CDT（糖鎖欠損トランスフェリン）は、血清トランスフェリンに結合している多糖類側鎖が欠損したトランスフェリンアイソフォームで、多量のアルコール摂取を続けることで上昇します。一般的に、エタノール約50～60g（日本酒3合）を2週間以上にわたり毎日飲酒した場合、CDT値が上昇する原因となります。

欧米では、CDTは慢性的な多量飲酒者のスクリーニング、飲酒量及び禁酒のモニタリングに有用な習慣飲酒のマーカーとして使用されています。

本邦においては、肝障害患者におけるアルコール性肝障害の診断補助を目的とした体外診断薬として承認されました。また、相当量の飲酒にも関わらずγ-GTが異常値とならない群（ノンレスポnder）においてもCDT値の上昇が見られたとの報告があることから、γ-GTとCDTは互いに相補的なマーカーと考えられます。

非アルコール性疾患のうち、慢性活動性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、肝不全、CDG（先天性糖鎖合成異常）症候群では、疾患に基因してCDTが増加する可能性があります。また、妊婦のCDTは高値になることが報告されています。

本検査は、CDT値とトランスフェリン値の比を%CDTとして算出いたします。CDT値は、トランスフェリン値、鉄状態、肝機能障害などの影響を受けますが、%CDTとすることでその影響を最小限にしてご報告いたします。

### ▼ 疾患との関連

アルコール性肝障害

### ▼ 関連する主な検査項目

γ-GT (γ-GTP)  
AST (GOT)  
ALT (GPT)

### ▼ 検査要項

検査項目名	CDT/トランスフェリン比	
項目コードNo.	6186 2	
検体量	血清 0.6 mL	
容器	→A00 (X) ポリスピッツ	
保存方法	冷蔵保存してください	
所要日数	3～9 日	
検査方法	CDT：ネフェロメトリー トランスフェリン：免疫比濁法	
基準値	%CDT	1.24～2.16 アルコール性肝障害のカットオフ値 2.00 (%)
	トランスフェリン	M 190～300 F 200～340 (mg/dL)
検査実施料		
判断料		
備考	トランスフェリンが120mg/dL未満の場合、%CDTは評価できませんのでご注意ください。（試薬添付文書より）	

### ● 参考文献

山田 真子, 他：アルコールと医学生物学 29：72～77, 2010. (検査方法参考文献)